

管理指標案

別紙2

アップデート案						アップデート案		アップデート案		
項 目	項 目	単位	※1 優位性	※2 P I	積 算 方 法	指 標 の 解 説	基準年度 平成30年度 (2018年度)	基準年度 令和5年度 (2023年度)	目標年度 令和11年度 (2029年度)	目標年度 令和17年度 (2035年度)
1. 安全～安全で安心できる水道水の供給～										
水質基準不適合率		%	↓	－	水質基準不適合回数/全検査回数×100	給水栓での水質基準値に対する不適合割合を表している	0.0	0.0	0.0	0.0
水源確認回数		回	↑	－	水源の巡視等の回数	淀川表流水の取水地点である淀川取水場もしくはその周辺の状況を、巡視等により調査した回数であり、水源の健全性の確認頻度を表している	28	28	28	28
鉛製給水管率		%	↓	A401	(鉛製給水管使用件数/給水件数) ×100	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取組みの進捗度合いを表す指標の一つ	6.9	3.0	1.4	●●●
直結給水率		%	↑	A204を援用	(直結給水戸数/ (直結給水戸数+受水槽戸数)) ×100	給水戸数に対する直結給水戸数の割合を示すもので、受水槽管理の不備に伴う衛生問題などに対する水道事業体としての取組み度合いを表す指標の一つ	70.1	73.8	75.0	●●●
小規模貯水槽水道点検率		%	↑	A205を援用	(小規模貯水槽水道点検件数/小規模貯水槽水道数) ×100	小規模貯水槽水道 (10m ³ 以下の貯水槽) 数に対する点検を実施した件数の割合を示すもので、水道事業としての貯水槽水道への関与度を表す指標の一つ	95.5	91.3	97.0	●●●
2. 強靱～災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築～										
地下水源率		%	↑	－	(地下水量/年間総配水量) ×100	水源別総配水量に対する水源別総地下水量の割合を示すもので、水道事業体の水源特性を表す指標の一つ	11.1	7.0	15.0	●●●
基幹管路の耐震適合率	【変更】 基幹管路の耐震管率	%	↑	B606-2	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/基幹管路延長) ×100	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B606 (基幹管路の耐震管率) を補足する指標	48.5	56.7 51.2	65.0	●●●
重要給水施設管路耐震化適合率 (箇所比)	【変更】重要給水施設管路耐震管率 (箇所比)	%	↑	－	管路の耐震適合性を有する重要給水施設箇所数/重要給水施設箇所数	重要給水施設の総箇所数 (69箇所) に対する耐震適合性のある管路で供給されている重要給水施設の箇所の割合を示す指標	8.7	23.2 23.2	20.0	●●●
法定耐用年数超過管路率		%	↓	B503	(法定耐用年数を超えている管路延長/管路延長) ×100	管路の延長に対する法定耐用年数を超えている管路の割合を示すものであり管路の老朽度、更新の取組み状況を表す指標の一つ	37.7	39.1	40.0	●●●
管路の更新率		%	↑	B504	更新された管路延長/管路延長×100	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標の一つ	0.91	1.28	1.20	●●●
配水池点検率		%	↑	－	劣化診断等の点検を実施した配水池数/総配水池数	躯体コンクリートの劣化状態を点検した配水池の割合を示すものであり、健全性確保のための配水池点検の執行度合いを表す指標の一つ	0.0	63.6	100.0	100.0
応急給水施設数		箇所	↑	B611を援用	配水池・緊急貯水槽・組立式貯水槽等の設置箇所数	応急給水施設数を示すもので、震災時などにおける飲料水の確保のしやすさを表す指標の一つ	21	45	45	●●
【追加】	年間の災害対策訓練実施回数	回/年	↑	B210を援用	年間の災害対策訓練実施回数	1年間に災害対策訓練を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す指標の一つ		20		●●
3. 持続～将来にわたり持続可能な水道事業の経営～										
経費(料金)回収率		%	↑	C113	(供給単価/給水原価) ×100	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標の一つ 必要な経費を回収できない状況避けるため、下限を100%とする	107.3	108.5	100.0	100.0
給水原価		円/ｍ ³	↓	C115	(経常費用-(受託工事費等+長期前受金戻入見合いの減価償却費等))/有収水量	有収水量1m ³ 当たりの経常費用 (受託工事費等を除く) の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費用がかかっているかを表す指標 施設更新の本格化に伴う減価償却費の増加等を踏まえ、令和11年度(2029年度)の値を150円/㎡と見込む	140.9	157.5	150.0	投資財政計画の結果を反映
流動比率	【検討中】	%	↑	C118	(流動資産/流動負債) ×100	流動負債に対する流動資産の割合を示すものであり、事業の財務安全を表す指標の一つ (流動負債：未払い金、預り金など1年以内に支払う必要があるもの。流動資産：預金・現金、土地や建物、貯蔵品など1年以内に現金化できるもの。)	199.2	204.2	200.0	200.0
給水収益に対する企業債残高の割合		%	↓	C112	(企業債残高/給水収益) ×100	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標の一つ 2大工事等の財源確保のために一定の上昇を見込むものの将来世代の負担を考慮し350%を上限とする	187.1	301.3	350.0	350.0
研修時間 (内部+外部)		時間/人	↑	C203を援用	(職員が研修を受けた時間×受講人数) /全職員数	職員一人当たりの内部・外部研修の受講時間を表すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標の一つ	22.4	27.2	25.0	25.0
配水量1m ³ 当たり電力消費量		kWh/ｍ ³	↓	B301	(年間電力消費量/年間配水量)	配水量当たりの電力消費量の割合を示すもので、省エネルギー対策への取組度合いを表す指標の一つ	0.25	0.23	0.30	●●●
有収率		%	↑	B112	(年間有収水量/年間配水量) ×100	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標の一つ	95.9	95.7	96.0	96.0
4. 地域～吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業の運営～										
水道事業に対する苦情対応割合		件/1,000件	↓	C504を援用	(水道事業に対する苦情対応件数/給水件数/1,000)	給水件数に対する水道事業 (サービス、料金や水質等) に関する苦情対応件数の割合を示すもので水道サービス向上に対する取組み状況を表す指標の一つ	—	0.3	0.5	0.5
※3 若年層のすいどうにゅーすの読書率		%	↑	－	(若年層の「読んだことがある」の回答数/若年層のアンケート回答総数) ×100	アンケート調査の回答ですいどうにゅーすを「読んだことがある」と回答した人数の割合 (若年層) を示し、若年層のすいどうにゅーすの認知度合いを表す指標の一つ	26.7	21.7	33.0	33.0
市民満足度		%	↑	－	「満足している」等の回答数/アンケート回答総数×100	アンケート調査の回答で水道事業に「満足している」等と回答した人数の割合を示し、市民の水道事業への満足度合いを表す指標の一つ	91.2	93.1	95.0	95.0

※1 優位性「↑」は数値が高い方が望ましい場合、「↓」は数値が低い方が望ましい場合

※2 PI=Performance Indicator：日本水道協会が平成17年（2005年）1月に制定し、平成28年（2016年）3月に改正した水道事業ガイドラインに定められている119項目の業務指標

※3 令和3年度（2021年度）に策定した広報戦略「広報コンパス5D」に基づき、管理指標の項目を見直しました。また、基準年度の値は令和2年度（2020年度）の実績値を採用し、目標年度の値は令和12年度（2030年度）の目標値を記載しています。